

ヨコハマR委員会 第2回全体会議

日時：平成23年6月29日（水）

13：30～15：15

場所：松村ビル地下1階会議室

1 あいさつ

委員長：「ヨコハマ3R夢プラン」では、出たごみをどうするかということではなく、ごみになるものを持ち込まないというように、環境の観点からライフスタイルそのものを見直す、変えるという新しい問題に市民が向き合うこととなる。

これは、市民と行政だけでできるものでなく、メーカー、小売店、流通等事業者の連携なくしては進まない。市民のみなさまや事業者のみなさまから斬新なアイデアがでて、少しでも連携が結ばれて、魅力的なライフスタイルを横浜から発信できればと思う。

局長：1月にG30プランの後継である「ヨコハマ3R夢プラン」ができた。ごみと資源全体を減らし、環境負荷を低減するため温室効果ガスも削減するという難しい目標をたてた。時間がかかると思うが、市民や事業者のみなさまに、リデュースを浸透させていきたい。

委員会で検討されたアイデアが実現している。今後もこの場を活かして、リデュース行動を支援し、拡げ、プランを推進していきたい。

2 委員紹介

3 議事

(1) 検討委員会における検討状況等報告

事務局から説明

(2) 平成23年度の活動について

①活動方針及び活動内容について

事務局から説明

委員：特に子ども靴のリユースなどのいい取組は広く市民に広報してほしい。

委員：食品トレー削減の取組について市民は関心が大きいと思うが、事業者として取り組んでいくことは簡単なことではない。事業者のみなさまからも知恵を伺えればと思う。

委員：「食品トレー削減」はあくまでも切り口に過ぎない。トレー削減だけを進めていくということではなく、これをきっかけにして包装の削減について考えてみませんかというのが取組の趣旨。

委員：長屋門公園でマイボトルスポットをやっているが、ウォーキンググループの方々

になぜマイボトルスポットを展開しているのかを話している。年間何千人という人が訪れているので、かなりの宣伝にはなっている。マイボトルスポットでは、そのような役目も果たしていく必要がある。

→活動方針及び活動内容案について承認

②取組発表イベントについて

事務局から説明

委員：イベントの対象はどのあたりをメインとしているのか。

委員長：イベントのターゲットは絞らず、広くファミリー向けになるだろう。

→イベント概要について承認

(3)「ヨコハマRひろば 応援マーク」について

事務局から説明

委員：このマークは、ヨコハマR（リデュース）ひろばを応援していることを表すのか。

事務局：サポーター制度等とは逆で、ヨコハマR(リデュース)ひろばが、イベントや取組などを応援していることを表すもの。

委員：このマークを使ってもらおうとするPRが必要。どのようにPRしていくのか。

事務局：3R夢パートナー、3R夢サポーターの登録者に送信しているメールマガジンで配信する。すぐにこのマークは何を意味するのかはわからないかもしれないが、ミーオ、イーオで市のごみ関係のことだと直感的に思ってもらえると考えている。

→デザインを含め、この方向で進めていくことについて承認

(4) ヨコハマR委員会 会議の傍聴

事務局から説明

事務局：委員の所属している組織の会員が傍聴したいというお話があり、委員の皆さんのご紹介の方については全体会議も検討会議も同席可能としたい。一般の方については、検討会議は傍聴不可、全体会議は傍聴可能としたい。

委員：会議の告知はどうするのか。

事務局：局のホームページで事前に日時・場所を掲載する。

→案について承認

4 情報提供

- ・ 「ヨコハマ3R夢プラン」、「3R夢サポーター」「3R夢パートナー」制度、リデュース啓発リーフレット「始めよう！3R夢な暮らし」について→事務局から説明
- ・ 「環境絵日記」「月刊リサイクルデザイン」について→委員から説明

ヨコハマR委員会にこれまでに寄せられた提案

No.	概要	支援内容等	実施状況等	検討会議	検証
22-A1	その多くが捨てられてしまう子ども用の古靴を集め、ボルネオ島の子供達に送りたい。	提案者居住区内のリサイクルショップに、協力の可能性について打診し、提案者に紹介。	2/1～2/28に、緑区内のリサイクルショップにおいて店頭回収を実施。27足を回収し、3月に提案者がボルネオ島に届けた。(5月に帰国)	第1回	(第5回)
22-A2	スーパーなどの小売店における肉や魚の販売に使われている食品トレーを削減するために、スーパーの協力を得て啓発キャンペーンを実施する。	・チラシや啓発物品の作成支援、提供 ・記者発表などによる広報、区内の町内会掲示板へのポスター掲出調整 ・キャンペーン当日のスタッフ応援(記録係、取材対応等)	食品トレーを使用しない食料品の販売イベント(生鮮エコ朝市)を2回実施し、PRチラシ等を配布して啓発活動を行った。(1/22そうてつローゼン三ツ境店、2/12Fuji橋戸店)	第1回～ 第4回	(第5回)
22-A3	「環境絵日記」の募集を通じ、夏休みに小学生やその家族がリデュースについて考えるきっかけを提供するなど、啓発活動に活用してほしい。	本事業に対する具体的な支援は必要ないが、今後、リデュース啓発の一つの手段としての活用方法を検討していく。	今年度の開催予定 ・7月下旬～9月5日 作品募集 ・10月30日 表彰・展示イベント開催(以降、複数の施設で作品展を開催予定)	第1回	
22-A4	産業廃棄物(事業者が製品を製造する過程などにおいて生じる廃材等)を有効活用するアイデアのコンテストを開催する。	現段階では企画段階であり、今後、事業内容が具体的になり、横浜との関連性もはっきりしてから、具体的な支援策について検討していく。	今年度の開催予定 ・作品募集期間: 6/8(水)～8/31(水) ・1次審査: 9月上旬～ 9月中旬 ・2次審査選考会: 9月下旬予定 ・最終発表: 10月中旬頃 ・入選作品展示会: 10/22～11/1 コニカミノルタプラザにて開催	第1回	
22-A5	プラスチック製品から燃料を生産しようとしている群馬県の企業を、資金面から応援してほしい。	対象外(行政施策への提案と受け止め、行政内部で一つの提案として参考にさせていただくこと、また、具体的な支援要望にはお応えできない旨を回答)	-	第2回 ※報告	-
22-A6	木製品を回収し、小型発電所で燃やして発電に活用すべき。	対象外(行政施策への提案と受け止め、行政内部で一つの提案として参考にさせていただく旨を回答)	-	第2回 ※報告	-
23-A1	関内地区において、コンビニエンスストアと事業所の協力を得て、利用者にレジ袋と割り箸の辞退を呼び掛けるキャンペーンを実施します。	・宣言参加事業者への呼び掛け等について支援する。 ・ポスター、バッジの作成や、記者発表などによる広報について支援。	関内地区エリアにある8社27店舗のコンビニエンスストアの協力を得て、4月20日よりキャンペーンを開始。	第4回	
23-B1	・G30プランでは明確な目標が設定されたが、3R夢プランは明確ではない。 ・包装ごみの削減は、消費者ではなく事業者に呼び掛けるべき。等	行政施策への提案と受け止め、行政内部で一つの提案として参考にさせていただく旨を回答	-	(第5回) ※報告	-
23-A2	マイボトルへの飲料提供を行う「マイボトルスポット」の設置拡大等を通じ、マイボトルの活用を推進したい。	※支援要望内容 ・現在試行的に設置しているマイボトルスポットの運営状況を受け、今後のマイボトルの活用推進方法について、ご意見を伺いたい。	昨年10月以降、試行的に4箇所のマイボトルスポットを設置。(鶴見ふれあい館、長屋門公園、エリスマン邸、外交官の家)	(第5回)	
23-B2	3R夢プラン推進に、生ごみの水切りが効果的だと思う。電気式生ごみ処理機の有効性のPRや、助成数拡大などをしてはどうか。	行政施策への提案と受け止め、行政内部で一つの提案として参考にさせていただく旨を回答	-	(第5回) ※報告	-

ヨコハマ^{リデュース} R 委員会 支援した取組の結果検証（第5回検討会議資料）

テーマ	子ども靴のリユース（廃棄される子ども靴のリデュース）		No.	22-A1
提案者	緑区 男性	提案日	平成22年10月14日	
		検討会議	平成22年11月30日	
		検証日	平成23年 6月29日	
【概要】				
子ども用の古靴を集め、ボルネオ島の子ども達に送りたい。				
【実施結果】				
<p>緑区内のリユースショップの協力を得て、2月いっぱい回収を行い、27足を集めた。</p> <p>3月のボルネオ島訪問時に、以前から参加しているボランティア団体の一員として地方の集落を訪れ、現地の子どもたちに提供した。</p> <p>◆ 実施の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄されるはずの靴を回収でき、海外支援につながられた。 ・ 靴を受け取った子どもたちはもちろん、ボランティア団体も、非常に喜ばれる支援メニューができたことを歓迎している。 <p>◆ 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の取組としても適度な量の、状態のいい子ども靴が回収できた。リユースショップから常時回収を受け付けてくれるとの回答を得たので、11月に予定しているボルネオ訪問時に集まった靴を持参するなど、今後も取組を継続していきたい。 				
【支援内容】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 回収に協力しうるリユースショップのご紹介。 				
【効果検証】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣類に比べて靴はリユースが進みにくく、また、成長によってサイズが変わる子ども靴は、まだまだ使えるものが捨てられている。「もったいない」という気持ちをきっかけに、海外支援を行うと同時に、廃棄される靴のリデュースが実現した取組である。 ・ 				
【今後の課題、展開等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は、リユースショップ店頭でのPRのみで適度な量の靴が回収できたが、今後、回収数が減少した場合には、状況に応じてヨコハマRひろばウェブサイトによるPR支援等を行う。 				

子供古靴を届けました！

ヨコハマR委員会からご紹介頂いた「WE21 ジャパン・みどり」の皆さんの応援で今回初めて横浜の子供たちの古靴をボルネオの子供たちに届けました！

4月9日と10日の週末、東マレーシア・サバ州の州都コタキナバル市から東へ250キロほど離れた海辺のカンポンUbahへ行ってきました。カンポンとは市町村のうち市と町を除いたすべての集落を意味します。都市の近くにある大規模で比較的豊かなカンポンから国道から遠く離れたところにある数世帯だけの貧しいものまでさまざまですが、私たちが出向くのは言うまでもなく「豊かでない方」の集落です。

マレーシアは決して貧しい国ではありません。国を挙げての「Look East（日本を見習え）政策」が奏功し国民総生産で比較しても世界のトップ40に入っている国です。でもまだまだ貧富の差が大きいことも事実。全人口の1割近くの人が年間1万リングット（約28万円）以下で生活しているそうで都市と農村の格差だけでなく都市の中での格差にも著しい面があります。

Ubah村は国道から外れてジャングルの中を38キロも行ったその先にありました。東京の三宅坂から横浜市緑区の長津田まで246を走って30キロ足らず。こちらは未舗装のガタガタ道を10台の四輪駆動車に分乗して進みました。総勢30名に近いボランティアチーム。月に一度週末の休みを返上してこのような訪問を続けています。午後2時前、朝早く街を出てから7時間、ようやくUbah村に到着しました。35家族260人が暮らしているとのことですが陸路の開通は2007年とほんの数年前、それまでアクセスは海からのルートだけだったそうです。

村の学校がメイン会場。すでに大勢の子供や大人たちが待ち受ける中で準備開始。プレゼントコーナーにはたくさんのお菓子や飲み物やおもちゃ、それに米や塩やインスタント食品やポリタンクといった家庭向けのものまで。古着もどっさり持ち込まれました。でも靴は履き古しが2足だけ。いよいよ横浜から来た子供靴の出番です。コーナーの一角に見事に陳列されました！

でもプレゼントはメディカルチームによる健診を終えてから。まず廊下に設けられた受付で看護師による血圧測定と問診。それから2名の医師による診察。普段診療を受ける機会などない村人たち、子供だけでなくお母さんたちやお年寄りたちが真剣な表情で順番を待ちます。薬が必要な人は処方箋を書いてもらって次の薬局コーナーで受け取ります。診療もプレゼントもすべて無料。費用は私たちボランティアのポケットマネーでまかなわれます。メディカルスタッフも例外ではなく、出費はあっても報酬などありません。

健診が終わるといよいよプレゼントがもらえる。靴を目にした子供たち、遠目でチラッと眺めてもすぐに「欲しい！」とは言い出せずモジモジ。こちらから「どうぞ」と声をかけると駆け寄ってきて素早く抱え込みました。チームメイトたちのサポートで嬉しい笑顔をかメラにおさめることもできました。

実は私にはある不安がありました。それは「親切の押し売り」です。自分では親切（支援）と思ってやったことが受け手とすれば「ありがた迷惑」ではなかったか？ということです。もちろん前もって仲間たちの意見は聞いていました。そうしてからスタートしたのですがやはり現地ですべての子供たちの反応をこの目で確かめるまでは一抹の不安というべきものがありました。でも現地での光景と仲間たちの言葉はそれを見事に吹き飛ばしてくれるものでした。

リーダーの一人Luhさんは熱っぽく語ってくれました、「こちらでは古靴を寄付してくれる人は稀で手に入らない。だからほんとにありがたい。この村ではほとんどの子がビーチサンダルを履けているが先月行ったところではみな裸足だった。できればぜひ続けて欲しい」と。

もう一人のリーダーWongさんは「私を含めチームメンバーはみな経済的に多少の余裕がある人たち。ポケットマネーで寄付をするということも支援のひとつかもしれない。でも自分たちの思いを支援を必要とする人たちに確実に届けるには他人に委ねるのではなく自分たちの手による献立を直接届けるのが一番と考えた。子供靴は今まで揃えたくてもできなかった献立。だから今回新しくメニューに加えられたことを凄く喜んでいる。失くさないで欲しい」と興奮気味でした。

Ubah村程度の中規模カンポンでは1度に12～15足くらいの支援が適量と思われ、今回の収集数は約2か所分の支援となります。今回、個人の取組としてはちょうどいい数の子供靴を集めることができました。ヨコハマR委員会と「WE21 ジャパン・みどり」の皆さんの応援で届けることができた日本の子供たちの古靴は現地の子供たちだけでなく活動するチームの人たちにとっても素晴らしいプレゼントになりました。改めて心の底からお礼を申し上げます！



ヨコハマ^{リデュース}R 委員会 支援した取組の結果検証（第5回検討会議資料）

テーマ	小売店における食品トレーの削減		No.	22-A2
提案者	瀬谷区まちづくり区民の会 地球にやさしいゴミ問題プロジェクト	提案日 検討会議 検証日	平成22年11月10日 平成22年11月30日 他 平成23年 6月29日	
【概要】 スーパーなどの小売店における肉や魚の販売に使われている食品トレーを削減する				
【実施結果】 スーパーの協力を得て、食品トレーを使用しない食料品の販売イベント（生鮮エコ朝市）を2回実施し、PRチラシ等を配布して啓発活動を行った。（1/22 そうてつローゼン三ツ境店、2/12Fuji 橋戸店） ◆ 実施の効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物をするその場所での啓発活動は、機会を捉えていて効果的だった。 ・ 掲示板へのポスター掲出や、タウン紙によるPR効果もあり、大盛況だった。協力店舗からも、これだけ集客効果が大きいのであれば、今後も毎月継続していきたいとの意見が寄せられた。 ◆ 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を実施したスーパー等で、当日の様子などをちらしやパネルにして広報する。 ・ 区商連や、参加しなかったスーパーなどに、結果報告を行う。 ・ 他地域等での展開に活用していくために、記録資料をまとめる。 				
【支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ チラシや啓発物品の作成支援、提供 ・ 記者発表などによる広報、区内の町内会掲示板へのポスター掲出調整 ・ キャンペーン当日のスタッフ応援（記録係、取材対応等） 				
【効果検証】 ◆ 市民 <ul style="list-style-type: none"> ・ トレーだけでなく、その他のいらぬものに気づききっかけとなる取組だと思ふ。 ・ 実際に物を買う場所・タイミングに啓発活動を行うため、効果が高い。当日の買い物客からも「説明してくれて、よくわかった」という声があった。 ◆ 事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回、キャンペーン成功の実績ができ、店舗としても取り組みやすくなったと思ふ。また、協力店舗にとっては、来客が多かったことだけでなく、タウン紙等に取り上げられることにもメリットがあったと思ふ。（チェーンストア協会） ・ トレーには安全性や衛生面等の役割があり、ノントレー対応が可能な商品の一部であるが、トレーを使う必要のないものを削減していくことには賛成である。（プラスチック容器包装リサイクル推進協議会） ◆ 行政 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政から市民にではなく、同じ消費者の立場から、市民が市民に呼び掛けたことに、大きな意味、効果がある。 ・ 大きな一歩ではあるが、次の展開が重要。深掘りと水平展開の両方をどのように行うか、ひろばで引き続き議論すべき。 				
【今後の課題、展開等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な取組としていくために、恒常的なイベント開催や、他地域でのキャンペーン実施を行っていく必要がある。実施の調整の際に、本キャンペーンの記録を活用していく。 				

瀬谷区の「食品トレー削減」の取組について

1 取組の概要

瀬谷区まちづくり区民の会（各区にある区民会議が発展し、設立された組織）が、スーパーなどの小売店において、主に生鮮食料品を販売する際に使われている発泡スチロールなどの樹脂でできた食品包装容器等を出来るだけ削減していくため、事業者や行政と話し合いを行いながら、3者で協力し、食品トレーを使用しない生鮮食料品を販売するイベントを通して、市民から市民へ呼びかけを行いました。

2 啓発キャンペーンの詳細

小売店でイベントスペースなどを利用し、通常、食品トレーを使用して販売している生鮮食料品を、食品トレーを使用しない形式で販売する特売イベントを行い、その売場において、イベントの趣旨を市民が説明しながら、啓発チラシの配布や、アンケート調査を行いました。

3 取組の流れ

事業者（区内小売店など）を含めた話し合いの場をつくり、食品トレーの削減を含めた、ごみの減量について意見を出し合い、相互理解を深めた上で、啓発キャンペーンを実施しました。

【参考：瀬谷区における取組の経過】

H21年度 ・瀬谷区まちづくり区民の会「地球に優しいゴミプロジェクト」が区内の全てのスーパーに声をかけ、参加した2店と協議し、今後の取組テーマを「食品トレー」に絞って検討することを決定。

H22年度

9月 ・新年度の会議を開催し、取組の方向性の確認と現状認識を行い、事業者との共同キャンペーンの企画を進めることに決定（3R推進課と瀬谷事務所、区役所が呼びかけに応じ、会議に参加）

・瀬谷区内各スーパーに10月に開催する会議への参加呼びかけを行う
→相鉄ローゼン株式会社と、富士シティオ株式会社が会議への参加を承諾

10月 ・会議において、事業者の現状を聞き、キャンペーン内容の検討を行う

・区民まつりにおいて、3Rの啓発イベント（簡単なクイズとチラシの配布）を行う

11月 ・食品トレーを使わない生鮮食料品を販売する「生鮮エコ朝市」を2つのスーパーで1回ずつ行うことにキャンペーンの内容を決定し、詳細の検討を行う。

・市民との話し合いでヒントを得たFujiシティオがドリップシート（※）の削減を自主的に実施
※肉や魚などの下に敷き、血液などを吸わせるための発泡スチロール製のシート

12月 ・周知ポスターなどのデザインを調整し、区連合自治会にポスター掲示の依頼等を行う

・環境事業推進委員、消費生活推進員に各定例会議においてイベント当日の参加を要請
※イベント当日は各日7～8名が参加し、チラシの配布や説明などを行った

1月 ・1月22日に1回目の「生鮮エコ朝市開催」（そうてつローゼン三ツ境店）

・会議を開催し、1回目の「生鮮エコ朝市」の検証と、2回目の詳細およびスケジュール調整
・2回目の生鮮エコ朝市の、ポスターの印刷とポスター掲示の依頼等の調整

2月 ・2月12日に2回目の「生鮮エコ朝市開催」（Fuji 橋戸店）

3月 ・取組全体の検証会議を開催

4 具体的な取組手順

(1) 市民・事業者・行政による会議開催

- ・区内のスーパーなどの会議参加者への呼びかけ
- ・資料などの用意、議事録の作成
- ・会議日程の調整および会議開催場所の確保
- ・イベント内容の決定（食品トレーを使用しない食料品の販売イベント）

(2) 啓発キャンペーンの開催準備

市民→イベントポスターの印刷、自治会掲示板へのポスター事前掲示依頼など
事業者→事前の新聞広告などでのイベント告知、販売人員の確保など
行政→記者発表などによる広報、チラシや啓発物品の提供など

(3) 啓発キャンペーン当日

- ・市民→啓発チラシの配布、アンケート調査など
- ・事業者→イベント開催趣旨の呼びかけ、市民用控え室の準備など
- ・行政→啓発チラシの配布、取材対応など

(4) キャンペーンなどの結果報告

- ・事業を実施したスーパーなどで、当日の様子などをチラシやパネルにして広報する
- ・区商連や、参加しなかったスーパーなどに、結果報告を行う

5 イベント当日の様子

1月22日 そうてつローゼン三ツ境店



2月12日 Fuji橋戸店



当日は、事業者のイベント用特売品の魅力もあり、通常の催事よりも多くの方に御来場いただいたということでした。また、利用客からは、このようなイベントを定期的で開催して欲しいという意見も出ていました。

また、今後の活動の拡大および展開には、各区の環境事業推進委員および消費生活推進員が活動に参加していく必要があると考えます。

ヨコハマ^{リデュース}R 委員会 平成23年度の活動について

1 活動方針（案）

- (1) 委員会に寄せられた提案への支援を実施する。
- (2) 寄せられた提案を基に、特に推進していくべき取組についてはさらなる展開を図る。
- (3) 展開にあたっては、実施主体となるのではなく、必要とされる支援の検討やノウハウの提供等、実現に向けた支援を行う。
- (4) 各活動の成果について市民・事業者・行政の立場から評価を行う。

2 活動の具体的な内容（案）

(1) 取組展開への支援

① 食品トレイ削減の取組の展開

- ・ 他地域でのキャンペーン展開や、過去2回のキャンペーンの記録を作成し、取組推進に向けたポイントに関する情報提供や、アドバイスの提供等を行う。
- ・ 簡易包装商品コーナーの常設設置のために、現在すでに取り組んでいる店舗の調査を行い、PRポイントをまとめて情報提供を行う。

② マイボトル活用の推進

試行的に設置している4箇所のマイボトルスポットの結果検証を行い、今後の展開について検討する。

(2) 活動報告イベントの実施

ヨコハマR委員会に寄せられた提案と、その支援結果等の報告を行うとともに、リデュース全般について広くPRを行う。

(3) その他PR活動

- ・ ヨコハマRひろばウェブサイトの活用
- ・ ヨコハマRひろばチラシの配布 等

3 年間スケジュール（予定）

月1回 検討会議開催

随時 有志によるイベント企画打ち合わせ

6月下旬 全体会議開催（委員交代の確認、年間活動計画の検討 等）

11月頃 全体会議開催（取組支援の中間報告 等）

12月11日（日） 活動取組発表イベント開催

※会場：新都市プラザ（横浜駅東口 横浜そごう前）

取組発表イベントについて

平成23年度取組内容発表イベントの内容について、2月8日の検討会議に出席した委員を中心に有志の委員が集まり、5回に渡って意見交換を行いました。

現時点では以下の方向で検討を進めています。

1 イベントの目的

- ・ 市民や事業者に対し、ヨコハマR委員会が支援した新たなリデュースの取組の報告や、ヨコハマRひろばに関するPRを行う。
- ・ リデュースをはじめとした3Rについて、わかりやすいPRを行う。

2 イベント概要

- ・ 12月11日(日)の10～15時、新都市プラザ（横浜そごう正面玄関前）で開催。
- ・ 不特定多数の方に向けたPRを目指す。
- ・ パネル等の展示及びクイズラリー、ワークショップなどを実施する。

3 イベントのコンセプト

「ヨコハマRひろばの現実版」

4 具体的なプログラム案 等

(1) パネル等の展示

- ・ ヨコハマR委員会が支援した取組等を紹介。
- ・ マイボトルの展示コーナーを設置し、選ぶポイントがわかるようにする。
- ・ 子どもも楽しめるような、体験型の展示を設ける。

(2) クイズラリー

- ・ パネルの内容を基にした、3Rの基本的な情報について出題する。
- ・ 景品を用意する。

(3) ワークショップ

- ・ 風呂敷包み方講座
- ・ リメイク講座（ストッキングコサージュ、スカーフリメイク 等）
- ・ ゴミコン作品づくり講座（ポスターなどを活用した紙バッグの作製を予定。）

(4) その他

- ・ 会場内を、手作りリメイク作品で飾る。（大きなモニュメント、パネルの飾り 等）
- ・ パネルはイーゼルに立て、殺風景にならないようにする。

ポスターを活用した紙バッグ



★ 事業者委員他のみなさまへのお願い

- ・ 企画アイデアがありましたらお寄せください。
- ・ 展示希望のパネル等がありましたらご連絡ください。
- ・ 紙バッグづくりに使用可能な不要なポスターやカレンダーがありましたら、ぜひご提供ください。
- ・ クイズラリーの景品用物品のご提供が可能でしたら、ぜひご一報ください。

(案)

リデュース 「ヨコハマ R ひろば」 応援マーク 使用申し込みの手引き

1 「ヨコハマ R ひろば」応援マークとは

「ヨコハマ R ひろば」応援マークとは、リデュースをはじめとする「3R」を推進する特定の取組、イベント等(以下、「取組等」という)に対し、市民・事業者・行政の3者がリデュースなどを進めていくしくみである「ヨコハマ R ひろば」応援していることを示すマークです。



「ヨコハマRひろば」応援マーク

2 「ヨコハマ R ひろば」応援マーク使用の申し込み

「ヨコハマ R ひろば」応援マーク使用の申し込みにあたっては、「ヨコハマ R ひろば」の趣旨に賛同することを表明するしくみである「ヨコハマ3R夢パートナー」(事業者・団体等)または「ヨコハマ3R夢サポーター」(個人)に登録していただきます。

3 「ヨコハマ R ひろば」応援マーク使用の対象となる取組等

- (1) 「ヨコハマ R ひろば」の趣旨に賛同するもの。
- (2) 下記のような意図や内容を含む取組等については、登録をすることができません。
 - ア 特定の政治・宗教・思想の活動とみなされるもの
 - イ 公序良俗に反するもの、不快感を与えるもの
 - ウ 特定の商品のPRや販売に重きを置いているもの

4 「ヨコハマ R ひろば」応援マーク使用申し込みの際にご協力いただきたいこと

(1) 広報の連携

「ヨコハマ R ひろば」では、ウェブサイト等においてリデュースの取組等について情報発信しています。イベント等につきましては、「ヨコハマ R ひろば」ウェブサイトイベント登録をお願いします。また、それぞれがお持ちのウェブサイトや広報媒体、活動の場において、「ヨコハマ R ひろば」のPRをお願いします。

「ヨコハマ R ひろば」応援マークは、チラシ等に表示していただくようお願いします。また、イベント開催時等の「ヨコハマ R ひろば」の広報にご協力ください。

(2) アンケート等への協力

「ヨコハマ R ひろば」事務局から、リデュース等の取組推進の参考とするため、主催者や参加者の方を対象としたアンケート等をお願いすることがあります。その際のご協力をお願いいたします。

5 「ヨコハマ R ひろば」応援マーク使用についてのご注意

「ヨコハマ R ひろば」応援マーク使用申し込みは、「ヨコハマ R ひろば」の趣旨に賛同し、3Rを推進する取組等を、広報等で支援することを目的としたものです。したがって各取組等の趣旨・内容・質およびその効果に関して、「ヨコハマ R ひろば」

(案)

が認証を与えるものではありません。

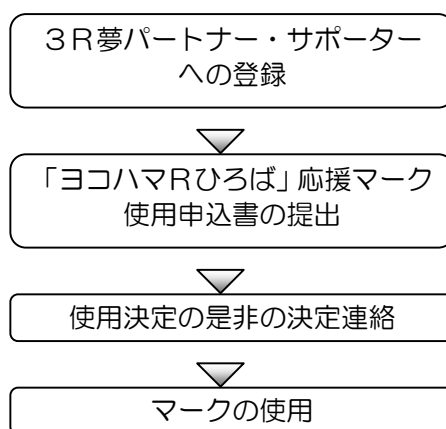
また、取組等の実施における事故やトラブル等については、各主催者の責任により対応することになりますので、ご承知ください。

6 申し込み時期と使用決定の流れ

「ヨコハマ^{スリム}3R夢パートナー」(事業者・団体等)または「ヨコハマ^{スリム}3R夢サポーター」(個人)登録後、募集は随時行います。

通常、使用申し込み日から業務日7日程度で、お申込みに使用の是非を通知いたします。

【申し込みの流れ】



※イベントの場合は、「ヨコハマRひろば」ウェブサイトのイベント登録システムもあわせてご活用ください。

7 お問い合わせ、申込み先

別紙 様式にご記入いただき、必要により資料を添付し、下記事務局まで、電子メール、FAX、郵送のいずれかでお申し込みください。様式は、下記ウェブサイトからダウンロードできます。

■ お問い合わせ・申込み先 ■

「ヨコハマ^{リデュース}Rひろば」ウェブサイト
<http://www.r-hiroba.jp/>

「ヨコハマ^{リデュース}Rひろば」事務局
横浜市資源循環局3R推進課
TEL：045-671-2530
FAX：045-663-5834
E-mail：sj-reduce@city.yokohama.jp

※ 本手引きは、事前の通告なく必要に応じて改訂される場合がありますので、ご承知ください。

平成23年6月29日

ヨコハマR委員会 会議の傍聴について

1 会議の傍聴について

委員が必要と認める場合、委員以外の方を全体会議・検討会議に傍聴可能としたいと考えております。(委員が求める場合は、発言も可能)

2 全体会議の公開について

審議会に類似した組織として、ヨコハマR委員会全体会議を公開制(一般の方も傍聴可能)としたいと考えております。(発言は原則として不可)

※全体会議日時の公開方法

→横浜市資源循環局ホームページ内 ヨコハマR委員会ページに日時及び場所を掲載

The screenshot shows the website for the Yokohama Resource Circulation Bureau. The main heading is 'ヨコハマR(リデュース)委員会' (Yokohama R (Reduce) Committee). Below the heading, there is a section titled 'ヨコハマR(リデュース)委員会とは' (What is the Yokohama R (Reduce) Committee?). The text describes the committee's composition and its role in reviewing proposals and providing information. A navigation menu at the top includes '横浜市', 'トップメニュー', '検索', 'モバイル版', 'リンク集', and 'サイトマップ'. A secondary menu includes '資源循環局トップ', '市民の方へ', '事業者の方へ', '計画・法令', 'データ・パンフレット', and '施設・組織図'. A search bar is also present.

▶ヨコハマR(リデュース)委員会 検討状況

■全体会議

第1回全体会議(平成22年11月30日開催)

■検討会議

第1回検討会議(平成22年11月30日開催)

[取組提案\(4件\)](#)に関する具体的な支援等について検討を行いました。

開催予定と、「傍聴希望者は事務局まで事前にご連絡を」という旨の記載を追加。

(参考)

横浜市チャレンジ・ザ・リデュース3者検討会(公開制)

→平成21年9月から平成22年7月まで7回開催。傍聴希望者なし。

みんな集まれ！ ヨコハマ3R夢サポーター ヨコハマ3R夢パートナー

市民・事業者・行政の3者が協力してリデュースを進めていく仕組みである「ヨコハマR（リデュース）ひろば」において、情報を共有し、3Rの取組を推進していくための登録システムを開始します！

このシステムを通して、より多くの方にリデュースの取組への興味をお持ちいただくことで、市民・事業者・行政の結びつきを強化していきます。

登録開始日：平成 23 年 4 月 1 日（金）

登録対象者：市民 [ヨコハマ3R夢（スリム）サポーター]

事業者・団体 [ヨコハマ3R夢（スリム）パートナー]

登録方法：「ヨコハマRひろば」ウェブサイト（<http://www.r-hiroba.jp/>）で必要事項を記入していただきます。

登録された方は、それぞれのロゴ（下図参照）を無料でウェブサイト上などにおいて利用することが出来るようになります。



また、「ヨコハマRひろば」のメールマガジンも配信されるようになり、ウェブサイトの更新情報や市民や事業者・団体の取組などの情報を受け取る事が出来るようになります。

【裏面あり】

○ ヨコハマ3R夢（スリム）サポーター

横浜市内の在住、在学、在勤の個人の方を対象とした登録制度です。ニックネームと居住地（市内在住であれば居住区まで）等と、3R活動に対する意気込みをご入力いただくだけで、サポーターとして登録され、「ヨコハマR（リデュース）ひろば」ウェブサイトにて登録情報をご紹介いたします。

○ ヨコハマ3R夢（スリム）パートナー

横浜市内に事業所や店舗、活動拠点のある事業者・団体を対象とした登録制度です。事業者や団体の情報の他、3Rへの取組内容や目標などをご記入いただくと、パートナーとして登録され、「ヨコハマR（リデュース）ひろば」ウェブサイトにて、登録情報をご紹介いたします。パートナーの優れた取組などは、「ヨコハマR（リデュース）ひろば」事務局などが取材を行い、同様にウェブサイトにて広報いたします。

※以下の事業者の方は、オープニングメンバーとしてご参加いただく予定です。

（株）エコーブ関東、（株）ピーコックストア、ユニー（株）、（株）ライフコーポレーション
（株）ヨークマート、（株）ビッグヨーサン、（株）阪急阪神百貨店 都筑阪急、（株）京急百貨店
（株）そごう・西武 そごう横浜店、（株）高島屋 横浜店、（株）ローソン関東支社、（株）ノジマ
（株）マルエツ、（株）東急ストア、相鉄ローゼン（株）、（株）イトーヨーカ堂（順不同）



「ヨコハマR（リデュース）ひろば」とは…

「ヨコハマR（リデュース）ひろば」は、誰もが提案したり参加したりできる、市民・事業者・行政が緩やかな連携で結びついたリデュースを進める仕組みです。

ホームページやイベントなどを活用して情報受発信を行うほか、市民・事業者・行政の3者により構成される推進組織、「ヨコハマR（リデュース）委員会」において、提案された新たな取組について支援を行っていきます。

お問い合わせ先

資源循環局3R推進課長 宮谷 敦子 Tel 045-671-2563